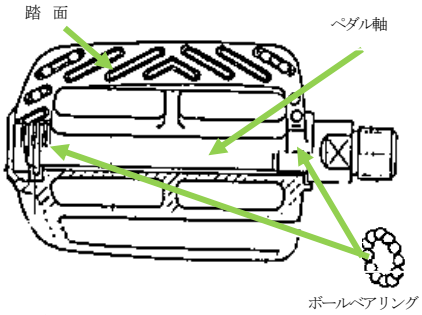
自転車の基礎情報

平成２８（２０１６）年９月２０日　No. １２

シティ車のペダルの種類と構造

今回は縁の下の力持ちとしての役割を担うペダルの種類と構造です。

まず種類ですが、ペダルにはシティ車の樹脂のペダルのほかに、ロードバイクで使用するシューズと一体化するビンディングタイプ、折りたたむことができるタイプといったいろいろな種類があります。ペダルのねじのサイズは、大きく分けて 9/16 インチ(ねじ径約 14.3mm)と 1/2 インチ(約 12.7mm)の 2 種類があり、シティ車を含めて多くの自転車が 9/16 インチです。また、ペダルには右のペダルを示す“R”と左のペダルを示す“L”の刻印があります。これは、ペダルが走行中に緩むことがないように、左のペダルは普通のねじとは反対(反時計回り)に締め込むねじ(逆ねじ)になっているためです。右のペダルは通常の時計回りに締め込むねじ(正ねじ)です。最近のねじはミリで表示されています。インチ(1インチ＝25.4mm)といってもピンとこないし、逆ねじといってもさらに分かりにくいと思いますが、現在でもこれらの表現は使われています。



次に基本的な構造ですが、ペダルの踏面には靴がすべらないように細かな溝や突起などがデザインされています。また、ペダルが回転しながら足の動きを追っかけることができるように、ペダルの踏面とペダル軸が触れる両端に、小さな金属製の玉(ボールベアリング)がセットされています。“玉当たり調整”“という用語をよく使いますが、これは「ボールベアリングの動きの調整」ということを表しています。長期間使用すると、ボールベアリングを受ける部分がすり減ったり、あるいは回転をスムーズにするグリスが切れたりして、足でペダルを回転させたときにゴリゴリし、あるいは重かったりします。

このようなときには、ペダルを一度取り外さなければならないことがあります。長期間使用しているペダルはクランクにくっついたような状態であることが多く、ペダルを脱着する際に使う工具である 15mmペダルレンチでも、ペダルは簡単に取り外せないことがあります。取り外すにも熟練した技術が必要になります。

次号は、平成28年10月20日に発行を予定しています。

９月のワンポイントアドバイス／降雨のときの自転車利用編

雨の日に自転車に乗るときには、カッパ、ポンチョやレインコートなどのレインウェアを着用します。その際、レインウェアがずれて視界が遮られたり、レインウェアに当たる雨の音で周りの音が聞こえにくくなったりしますので、自転車の乗車には注意が必要です。特に、雨が非常に強い状況で道路が冠水しているときには、絶対に自転車に乗ってはいけません。

＜発　行＞
一般財団法人自転車産業振興協会
〒141-0021 東京都品川区上大崎３－３－１ 自転車総合ビル４階
電話 ： 03-6409-6922　　FAX ： 03-6409-6868　http://www.jbpi.or.jp